京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称
日本における宗教と民衆への教え（16-19 世紀）

2. 主宰責任者氏名
マルタン，ノゲラ・ラモス（フランス国立極東学院・准教授）
鈴木　堅弘（京都精華大学・特別研究員）

3. 開催日時等およびプログラム（講演者名または報告者名を明記してください）
①日時：2019 年 04 月 12 日（金）18:00～20:00
場所：フランス国立極東学院・京都支部
演題等：「施印」というメディア――近世後期京都「孝学所」施印の流通と意味
講演者または報告者：ニールス・ファンステーンパール（京都大学・准教授）

②日時：2019 年 06 月 14 日（金）18:00～20:00
場所：フランス国立極東学院・京都支部
演題等：肥前温泉山（雲仙）信仰とキリシタン伝来
講演者または報告者：根井浄（肥前島原松平文庫長・元龍谷大学教授）

③日時：2019 年 6 月 28 日（金）19:00~20:00
場所：人文科学研究所・セミナー室1
演題等：近世日本に発信された禅――禅宗仮名法語の思想についての一考察
講演者または報告者：ディディエ・ダヴァン（国文学研究資料館・准教授）

4. 概要（400 字程度）
近世時代は日本仏教にとって衰微時代であるという説が最近の研究で見直されつつある。16 世紀から 17 世紀にかけての時代は、宗教一揆の終焉・仏教の芸能化・キリシタンの禁教令など、宗教界の権威性が徐々に薄れるなかで、寺社などが為政者の統制下に置かれたことは言うまでもないが、その時期こそ、仏教が全人口に及んだという事実も否定できないだろう。イデオロギー上も、将軍・大名が正統性の根源として神仏・寺社を利用したのも見過ごしてはいけない。また、17 世紀日本のもう一つの特徴は出版文化の発展でもあろう。初期の段階において、仏教系の出版物が数多くあった。このセミナーでは「宗教と民衆への教え」をテーマとして 16 世紀から 19 世紀にかけての宗教界の変遷を問い直した。発表者は日本の宗教文化に関する研究を行っている外国人と日本人であり、セミナーへの参加者は研究者はもちろんのこと大学院生・学部生も対象とした。

5. 参加者（別紙「参加状況」も記載してください。）

①学外：鈴木堅弘（京都精華大学講師）、ノゲラ・ラモス・マルタン（EFEO 准教授）、シルヴィオ・ヴィータ（ISEAS・京都外国語大学教授）、Erin L. Brightwell（University of Michigan 准教授）、Robert F. Wittkamp(関西大学教授)、白石恵理(日文研・助教)、リュウシュ・マルクス(龍谷大学)、Micah Auerback（University of Michigan 准教授）、Puck Brecher(ワシントン州立大准教授)、Francesco Campagnola (ISEAS)、

① 学内：ニールス・ファンステンパール（文学研究科准教授）、檜山勝彦(農学部), Andres Menache,
① 所内：稲葉穣、中西竜也、ノゲラ・ラモス・マルタン（EFEO 准教授兼）

② 学外：鈴木堅弘（京都精華大学講師）、ノゲラ・ラモス・マルタン（EFEO 准教授）、シルヴィオ・ヴィータ（ISEAS・京都外国語大学教授）、Erin L. Brightwell（University of Michigan 准教授）、Robert F. Wittkamp(関西大学教授)、リュウシュ・マルクス(龍谷大学)、坂知尋（総合研究大学院大学）Micah Auerback（University of Michigan 准教授）、Puck Brecher(ワシントン州立大准教授)、Francesco Campagnola (ISEAS)、名和田東子（Columbia Theological Seminary 教授）、Chiara Rita Napolitano(ISEAS)、アンドレア・カスティリョーニ(名古屋市立大学講師)、Patricia FISTER(日文研名誉教授)、秋山裕樹(高校生)
②学内：Andres Menache,　高田信子(工学部図書館)
②所内：稲葉穣、中西竜也、平岡隆二

③学外：鈴木堅弘（京都精華大学講師）、ノゲラ・ラモス・マルタン（EFEO 准教授）、シルヴィオ・ヴィータ（ISEAS・京都外国語大学教授）、Erin L. Brightwell（University of Michigan 准教授），
岩本明美(鈴木大拙館 主任研究員)、 Hideko MITSUI（St.Catharine's College,Cambridge）、
③ 学内: Arno Suzuki (理学研究科・SACRA)
③ 所内：稲葉穣、中西竜也

6.助成金の使途等
根井浄氏とディディエ・ダヴァン氏の招へい旅費

7.その他（成果や今後の展開等、自由に記載してください）
今年度後半から来年度にかけて、同様の国際ミーティングを継続する。「日本における信仰と「知」のはざま ― 中世・近世・近代を中心に ―」というテーマで七回の研究会を開く予定である。

別 紙

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	6	8 (3)	3 ( )	6 (2)	5 (1)	2 (1)	17 (3)	5 (3)	9 (2)	9 (1)	2 (1)
国立大学		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
公立大学	1	( )	1 ( )	( )	( )	( )	( )	1 ( )	( )	( )	( )
私立大学	4	4 ( )	3 ( )	2 ( )	2 ( )	1 ( )	10 ( )	7 ( )	5 ( )	2 ( )	2 ( )
大学共同利用機関法人	3	3 (2)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (2)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
独立行政法人等公的研究機関		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
民間機関	1	1 (1)	( )	( )	( )	( )	1 (1)	( )	( )	( )	( )
外国機関	6	9 (4)	7 (2)	2 (1)	2 (1)	1 (1)	18 (6)	16 (4)	5 (2)	5 (2)	2 (2)
その他	1	2 ( )	( )	2 ( )	2 ( )	( )	2 ( )	( )	2 ( )	2 ( )	( )
計	22	27 (10)	16 (3)	13 (4)	12 (3)	5 (3)	51 (12)	31 (8)	27 (5)	19 (4)	7 (4)

※( )内には、女性数を記載

※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。

※外国人、若手研究者(40 歳未満)、若手研究者(35 歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。

※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください

国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人